

大内かわら版 NO.23

大内地区 地域の 教科書

観光案内を目的に作られたものでなく、大内に住みたいという方が大内での生活をイメージしやすいよう、ありのままの暮らしぶりを記したものであり、地域住民の皆さんにとっては、当たり前になっていた地域の魅力・価値を改めて見つめ直すきっかけになるものです。現在は若者層への聞き取り内容を反映した第2段階となる「地域の教科書」づくりを進めています。

「自主防災組織」「防災訓練」について

大内地区では、全行政区（青葉は4行政区で1つ）が平成29年度までに自主防災組織を設立し、各々に炊き出し訓練や防災講座など、各自主防災組織で、防災訓練を行っています。



全国で次々と起こる災害・天災の状況を考えると、**いつ・どこで・どんな災害に遭遇するか分かりません**。自分や家族、周りの人が安全に安心して暮らせるよう、防災訓練に積極的に参加してみましよう！基礎知識が確認でき、「**いざという時どうするか**」を具体的にイメージできます。

教科書づくりをする中で、皆さんからこんな「防災」に関する声がありました

通学・通勤中・夜間などの時間帯によって、また、地震・豪雨・土砂崩れ、台風など災害の種類によって、対処は異なる。**さまざまな場面を想定した防災も必要**

防災訓練を通して、住民の防災意識を高めるとともに、**地域の共助・交流を深めたい**が参加者が少ない

防災や万が一の備えに対する意識が低くなっている



防災訓練に、世帯主の参加はもちろん大切だが、**その家族やこれから地域を担う若い世代にも参加してほしい**

高齢者・一人暮らし世帯のサポート体制も地域ぐるみで検討する必要がある

全国の防災に関する事例を見ると、「**夜間訓練の実施**」「**女性の視点を取り入れるため女性リーダーの設置**」「**地域行事に防災教育・訓練を組み込む（バケツリレー訓練→運動会、可搬式ポンプ作動訓練→どんと祭）**」など、各地で多様な工夫がされています。裏面で、さらに具体的な事例をご紹介します。

静岡県 自主防災組織活動の実践事例

静岡県の地域防災活動知事褒賞を受賞した自主防災組織の活動事例です。主に特徴的な内容のものをご紹介します。10～11月は、大内地区でも防災訓練が行われる区が多いようです。参考にできる部分があれば、ぜひ取り入れてみましょう！

A 自主防災会（630世帯、1561人）

定期的に組織を見直し、子どもにも関心を持ってもらえる工夫など、防災活動を積極的に取り組んでいる。

★「防災玉手箱」の設置

災害後すぐに活用できるように、必要なマニュアルや防災地図などを玉手箱に保管。



★チャリンコ隊による情報収集訓練

災害時、地元の若者が自転車で情報収集を行う訓練。無線の伝搬・通信訓練も実施。

★世帯状況を記した住民地図を事前に作成。班ごとに安否確認&情報収集。

★行動・指示がしやすいよう、地域の各道路に名前を付け防災地図に記載。

B 自主防災隊（86世帯、280人）

内陸にあり津波の危険性はないが、山に囲まれている分、土砂災害への関心が高い。気軽に参加でき、マンネリ化を防ぐ工夫により、防災訓練には世帯の8割以上が参加。地域コミュニティの推進にも繋がっている。

★「防災クイズ大会」開催

子供から高齢者まで全ての住民に楽しみながら防災知識を学べる。津波の到達時間や、災害伝言サービスの利用方法、家庭内備蓄の目安などを三択問題にして出題し、雑学を交えながら正解を発表する。

★黄色い旗を玄関に掲げる「安否確認訓練」

★毎月の防災資機材の点検



C 自主防災会（46世帯、91人）

津波浸水地域ではないが、災害時の孤立や万が一に備え、定期的に防災訓練を行う自助・共助意識が高い地域。

★避難路・避難施設の点検・整備

★可搬ポンプの放水訓練

★トランシーバー交信訓練

★住民へ防災グッズ配布

★ヘリコプター離着陸確認訓練

避難場所近くにヘリポートを整備。自衛隊と消防団、自治会役員が中心となり訓練。

★心肺蘇生法、心臓マッサージ、AED（心拍停止状態に使う医療機器）の使い方

